

地球温暖化防止ポスターを展示

御厨町内の小・中学生が描いた地球温暖化防止を訴えるポスターが3月中旬から下旬にかけて、御厨公民館に展示されました。

子どもたちに環境保護の大切さなどについて学んでもらおうと、御厨地区保健環境連合会（山川重晴会長）が初めて企画したものです。

同公民館ロビーには、町内5つの小・中学校の子どもが描いた約160点が展示。「今できることからしよう」「無駄な電気を消して地球を守ろう」など、日常の心掛けを促す作品などが並び、来場者は熱心に見入っていました。



オーストラリアの料理に挑戦

第9回世界のクッキング講座（松浦市国際親善協会主催）が3月23日、きらきら21で開催されました。

さまざまな国の料理を通して、それぞれの国の文化を学ぼうと平成11年度から毎年開催しています。

この日は、オーストラリア出身のALTフィオナ・マニング先生を講師に迎え、オーストラリアの人々が日常的に食べている料理を作りました。

出来上がった料理は参加した13人全員で試食。フィオナ先生からオーストラリアの料理や生活についての話もあり、オーストラリアの文化に触れました。



まちの話題



市内各地で春の戦没者慰霊祭

春の戦没者慰霊祭が4月4日から20日にかけて、市内各地で行われました。

今年は、志佐・青島・御厨・今福・星鹿・調川・上志佐の7地区で開催。15日に行われた調川地区戦没者慰霊祭（写真）には、遺族など約90人が参列。調川地区戦没慰霊奉賛会の北川理太郎会長が「平和日本の礎となった人々の犠牲の上に、現在は安全で安心なまちづくりがすすめられています。悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、郷土の発展と恒久平和に努力することを誓います」と追悼の言葉を述べました。また、参列者は黙とうなどを行い、戦没者の霊を慰めました。



色のもつ効果について学ぶ

地域活性化と雇用の創出をすすめている「平戸・松浦地区観光人材育成プロジェクト」のカラーマーケティングセミナーが3月27日、きらきら21で開催されました。

色の効果を販売促進や地域活性化に活用してもらおうと企画されたものです。

この日は、市内の事業者など約40人が参加し、カラーマーケティングコンサルタントの伊藤恵美子さん（福岡市）が「色のちからを味方（えみこ）にしていますか？」と題して講義。さまざまな色の与える印象や効果、また販売促進につながるロゴや商品なども紹介され、参加者たちは色の持つ力を再認識していました。



福島町の常備消防業務を 伊万里市から引き継ぎ

福島町常備消防業務引継式（伊万里市、松浦市、松浦地区消防組合主催）が4月1日、松浦地区消防組合消防署福島出張所で行われました。

昭和48年に福島町と伊万里市との間で消防事務委託が締結され、伊万里市消防署福島分署として町内の消防業務が行われてきましたが、3月末に消防事務委託が終了したことを受け、同消防組合に引き継がれたものです。

引き継ぎに際し、伊万里市と松浦地区消防組合は常備消防相互応援協定を締結。今までと変わらず火災や救急搬送の際には伊万里市側からも応援に駆けつけます。消防車や救急車などの車両も引き継がれ、伊万里市から派遣される2人と松浦地区消防組合の7人を合わせた9人体制で、常時3人が勤務します。



志佐川に稚アユを放流

稚アユの放流が4月11日、志佐川で行われました。志佐川の水産資源の維持と子どもたちの体験学習のため毎年この時期に放流しています。

この日放流した稚アユは、大分県湯布院町から運ばれた体長8センチほどの約5万尾で、志佐川漁業協同組合（山口利光組合長）と市職員などが、約1時間かけて志佐川の5か所で放流。上志佐郵便局下の川では、上志佐保育所の年中、年長組の園児15人や上志佐小学校の3、4年生32人の参加もあり、生き物との触れ合いを楽しみながら稚アユを放流していました。

6月1日のアユ漁解禁には、17、8センチに成長する見込みです。

市内各校で入学式

寄贈された椅子に座って入学式

星鹿小学校（友廣幸穂校長）の入学式が4月9日、同校体育館で行われ、卒業生から寄贈された椅子が新入生たちを出迎えました。

この椅子は、3月に卒業した14人の卒業生が卒業記念として新1年生に使ってほしいと製作。脚の高さ30センチ（全体50センチ）、横幅36センチ、奥行き30センチでスギの板で作られています。

この日、男子5人、女子7人の新入生は、小さい体にちょうどいいサイズに作られた椅子に座って、緊張しながらも期待に胸をふくらませた様子で校長先生のお祝いの言葉を聞いていました。

同校では、来年以降もこの椅子で新入生を出迎えます。



松浦東高校に最後の新入生

県立松浦東高等学校（山口和秀校長）で4月8日、最後の新入生を迎える入学式が行われました。

同校は、食品科学科36人と商業科21人の新入生を迎え、全校生徒は140人。昭和24年に県立北松高校（現在の北松農業高校）今福分校として設立され、昭和41年に県立松浦園芸高校となり、平成4年に松浦東高校に校名変更。県教委の県立高校再編整備により、平成23年3月に62年の歴史を閉じます。

山口校長は「名譽ある高校として終わらせるため、歴史上大切な役割を自覚し、それぞれの夢を実現させてください」と話し、新入生を代表して商業科の北川くるみさんが「誠実・創造・自律の校訓に基づき、学校に恥じない生徒となるため、自身の向上に励みます」と宣誓しました。

